

第94回 病態生化学セミナー

日時：平成27年11月17日（火曜日）午後6時00分～

場所：医学部 図書館3階 視聴覚室

演題：マイトホルミーシス

Mitohormesis

演者：石川 冬木 先生

京都大学大学院生命科学研究科 教授

老化の活性酸素仮説によれば、呼吸に伴ってミトコンドリアで産生される活性酸素種が、細胞のもつ蛋白質、DNA、脂肪などを酸化し、その機能を失わせることで個体老化が進行する。活性酸素種がミトコンドリア自身を酸化し、電子伝達系分子の機能を失わせると、さらに活性酸素種が放出される結果となり、この仮説は悪循環過程をもたらすことで老化の加速的・非可逆的進行をよく説明する。しかし、近年、軽度～中程度のミトコンドリア障害はむしろ細胞や個体の生存を助け、正の適応的価値を持つ場合があることが報告され、これはマイトホルミーシス（mitohormesis）と呼ばれることが多い。私たちは、分裂酵母を用いてmitohormesis 機構の一端を明らかにしたので、その結果を発表したい。【石川 冬木】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp